

ワークショップタイトル:「地域の幸福」の多面的測定:地域内外の社会関係資本からの検討

企画者:内田由紀子 京都大学 (会員)

司会者:福島慎太郎 東京女子大学 (会員)

発表者:

1 内田由紀子 京都大学(会員)

2 一言英文 福岡大学(会員)

3 箕浦有希久 同志社大学(会員)

指定討論者: 浜村 武 Curtin University (非会員)

企画要旨:これまで地域の状態を測定する手法としては経済状態や人口動態などのマクロ要因で測定が行われるか、あるいは住民の個人の状態の平均値を用いて(たとえば満足度や幸福度の平均値)測定されることが多かった。しかし、実際には地域の文化価値などを含むマクロな状態と個人の状態は相互作用するものであり、同時に検討ができるようなフレームワークや測定が必要である。本ワークショップは地域の指標が「モノの豊かさ」から「こころの豊かさ」にシフトしている中、JST RISTEX が実施する「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域の研究開発プロジェクト「地域の幸福の多面的側面の測定と持続可能な多世代共創社会に向けての実践的フィードバック」(研究代表者:内田由紀子)において H27 年度より実施している取り組みの中から、いくつかの知見を紹介する。最後に社会心理学とは異なる立場(システムデザイン・社会工学・幸福学)から、一連の研究についての考察をいただく。

発表 1 においては、西日本の約 500 集落をサンプリングした調査から、地域内の信頼関係が地域の開放性(ほかの土地に住む人や、移住者への開放的な態度)や幸福感と関連する研究の知見を紹介する。また、地域内信頼が地域の幸福とかかわることが日米で見られる一方で、地域内信頼と開放性との関連においては日本で確認されるような正の関係が北米では見られないというデータを示し、こうした差異が現れる原因(調整要因)について検討を行う。発表 2 においては、26 集落を対象とした生活環境の評定(集落内にある住居の様子等)と、集落住民からサンプリングされた心理調査データと紐付けした検討の結果から、農村的な特徴を持つ地域では地域行事活動への参加と町外他者とのかかわり人数が多くあるという点で地域内の結びつきと開放性が両立し、地域内住民との水平的な関係性があることなどが示された調査の結果を提示する。発表 3 においては地域の幸福を支える要因としての京都市内(学区のまとまりが強い都市的地域)ならびに京丹後市(農村地域)や岩手県滝沢市(移住者が多い地域)における聞き取り調査をもとに、地域の開放性を支える促進要因と阻害要因を考察する。最後に、地域をささえる内部での信頼関係と開放性・多様性をみとめる状況が発生する要因についてのディスカッションを行う。